

Command Line Interface (CLI) によるスイッチの設定 Simple Network Time Protocol (SNTP) 設定

目標

この資料の目標はスイッチの時間設定を同期するために SNTP サーバをイネーブルに設定するように (CLI) ステップを提供し、説明することです。

概要

Simple Network Time Protocol (SNTP) は選択の SNTP サーバとネットワーク デバイスのシステムの時刻を同期します。SNTP サーバは世界時 クロック (UTC) を使用します。これは世界がクロックおよび時間を調整する標準協定時刻です。SNTP を使用するイベントが記録される時、タイムスタンプのために単一のソースを使用するようにするので管理アクティビティで有用です。同期ネットワーク イベントの収集は出来事の順序に正確なウィンドウを証明します。

SNTP サーバにこのサービスを利用するために接続する必要があります。必要のために十分である別のインターネット 時刻源を有効にしたら、これらのステップを実行する必要はありません。認証がはたらかせることができるように、それ使用する時刻源が各クライアントに同じインターネット 時刻源を使用してもらって有利である関係無し。クライアントがログインにできない場合、時間設定はよい最初トラブルシューティングの手順です。

この資料の目標はスイッチの時間設定を同期するために SNTP サーバをイネーブルに設定するように (CLI) ステップを提供し、説明することです。これらの設定をスイッチの [Webベース ユーティリティによって行うために、ここをクリックして下さい。](#)

注: 下記に示されているイメージはさまざまなスイッチから撮られました、従ってデバイスの名前はスイッチ名前一致する可能性が高い変わり。hashtag シンボルの後のコマンドはスイッチの設定のため同じであるはずでずです。

適当なデバイス

- Sx300 シリーズ
- Sx350 シリーズ
- SG350X シリーズ
- Sx500 シリーズ
- Sx550X シリーズ

[Software Version]

- 1.4.7.05 - Sx300、Sx500
- 2.2.8.04 - Sx350、SG350X、Sx550X

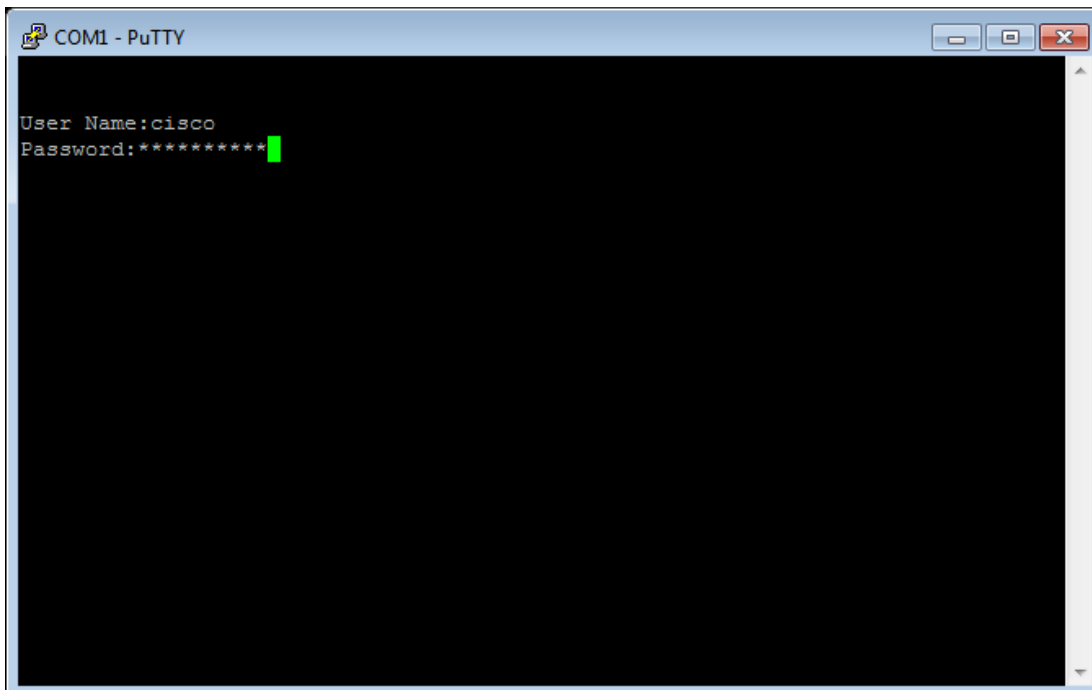
スイッチの設定 SNTP モード

有効 SSH および SNMP ユニキャスト

ステップ 1.セキュア シェル (SSH) および telnet はデフォルトで有効になりません。SSH を使用してスイッチの CLI に接続するために、SSH サービスは有効にする必要があります。[手順のためにここをクリックして下さい。](#)

ステップ 2. SSH か Telnet を使用して Cisco スモール ビジネス スイッチ Command Line Interface (CLI) にアクセスすることに関する説明に関しては、[ここに](#)クリックして下さい。

ステップ 3.スイッチの CLI にアクセスして下さい。デフォルトのユーザ名およびパスワードは cisco/cisco です。資格情報をカスタマイズする場合、ユーザ名 および パスワードを代りに入力して下さい。



注: コマンドかオプションはデバイスのモデルによって変わるかもしれませんが。この例ではコンソールによってスイッチの CLI にアクセスするのに、パテが使用されています。詳細については[コンソール接続を使用してパテにアクセスする方法でここをクリックして下さい](#)。

ステップ 4. CLI で次のコマンドを入力することによってグローバル な 設定にモードを切り替えて下さい:

```
User Name:cisco
Password:*****

SG350X#configure terminal
```

ステップ 5.デフォルトで、SNTP ユニキャストは無効になります。ユニキャストは単一送信側と単一レシーバ間の通信です。SNTP ユニキャストは次のコマンドの入力によって有効にすることができます:

```
SG350X(config)#sntp
switche6b7bd#configure terminal
switche6b7bd(config)#sntp unicast client enable
```

設定 SNTP モード

ステップ 1.次のコマンドを使用して SNTP ブロードキャストクライアントを有効にしてください:

```
SG350X(config)#sntp [ | ipv4 | ipv6]
```

次のオプションがあります。

- 両方—これは Internet Protocol (IP) バージョン 4 (IPv4) こと規定しますおよび IPv6 SNTP ブロードキャストクライアントは有効になります。
- ipv4 —これは IPv4 SNTP ブロードキャストクライアントを有効に 規定します。
- IPv6 —これは IPv6 SNTP ブロードキャストクライアントが有効に なること規定します。

注: この例では、sntp ブロードキャストクライアント有効は両方入ります。

```
SG350X#configure terminal
SG350X(config)#sntp broadcast client enable both
SG350X(config)#
```

ステップ 2.特権を与えられた次のコマンドの入力によって EXEC モードに切り替えて下さい:

```
SG350X(config)#exit
SG350X#copy running-config startup-config
```

ステップ 3.設定を保存するために EXEC 特権モードで次のコマンドを入力して下さい。

```
SG350X#COPY running-config startup-config
SG350X(config)#exit
SG350X#copy running-config startup-config
```

ステップ 4.スイッチのスタートアップ コンフィギュレーションの設定を保存するために『 Y』 を押して下さい。

```
SG350X(config)#exit
SG350X#copy running-config startup-config
Overwrite file [startup-config]... (Y/N) [Y] ?
```

CLI によって今うまくスイッチの SNTP 設定を行う必要があります。

```
SG350X(config)#exit
SG350X#copy running-config startup-config
Overwrite file [startup-config]... (Y/N) [N] ?Y
16-May-2017 04:35:28 %COPY-I-FILECPY: Files Copy - source URL running-config destination URL flash://system/configuration/startup-config
16-May-2017 04:35:30 %COPY-N-TRAP: The copy operation was completed successfully
```

ローカル タイムを表示するために SNTP 設定を行って下さい

クロックは UTC に今設定 されます。さまざまな時間帯全体の場所がある場合、UTC はすべてのデバイスとの時間の一貫性を確認しますが、ローカル タイムを表示しません。ローカル タイムゾーンにディスプレイ時間を変更するこれらの手順に従って下さい。

ステップ 1. グローバル な 設定 モードを開始するために次のコマンドを入力して下さい。

```
SG350X#configure terminal
```

SG350X#CONFIGURE

ステップ 2. 別の何時間をローカル タイムが UTC と比較されるか特定時間帯のために入力すれば。この例では、時間帯は UTC の後ろの 6 時間である中部標準時に設定 されます。

SG350X(config)#clock CDT -6

```
switch23b7cd#config terminal
switch23b7cd(config)#clock timezone CDT -6
```

時間帯が夏時間に続く場合ステップ 3. (オプションの)、次のコマンドの入力によってこれを設定 できます。

```
SG350X(config)#clock Web
switch23b7cd(config)#clock summer-time web recurring usa
switch23b7cd(config)#11-Jun-2018 08:41:46 %HTTP_HTTPS-W-WEBWARNING: GOAHEADP_extract_credentials_and_channel_from_query:credentials expected to be encrypted
11-Jun-2018 08:41:46 %AAA-I-CONNECT: New https connection for user cisco, source 10.2.0.153 destination 10.2.0.224 ACCEPTED
exit
switch23b7cd#
```

ステップ 4. 特権を与えられた次のコマンドの実行によって EXEC モードに切り替えて下さい:

```
SG350X(config)#exit
SG350X#copy running-config startup-config
```

SG350X(config)#exit

ステップ 5. 設定を保存するために EXEC 特権モードで次のコマンドを入力して下さい。

```
SG350X#COPY running-config startup-config
SG350X(config)#exit
SG350X#copy running-config startup-config
```

ステップ 6. スイッチのスタートアップ コンフィギュレーションの設定を保存するために『 Y』 を押して下さい。

```
SG350X(config)#exit
SG350X#copy running-config startup-config
Overwrite file [startup-config]... (Y/N) [Y] ?
```

SNTP 設定を確認して下さい

ステップ 1. SNTP 設定を確認するために次のコマンドを入力して下さい:

```
SG350X#show sntp configuration
SNTP destination port : 123 .
Polling interval: 1024 seconds.
```

ステップ 2.ブロードキャストクライアントが有効になることを確認して下さい。

```
SG350X#show sntp configuration
SNTP destination port : 123 .
Polling interval: 1024 seconds.
No MD5 authentication keys.
Authentication is not required for synchronization.
No trusted keys.

Unicast Clients: Enabled
Unicast Clients Polling: Enabled

Server      : time-a.timefreq.bldrdoc.gov
Polling     : Enabled
Encryption Key : Disabled

Server      : time-b.timefreq.bldrdoc.gov
Polling     : Enabled
Encryption Key : Disabled

Server      : time-c.timefreq.bldrdoc.gov
Polling     : Enabled
Encryption Key : Disabled

broadcast Clients: enabled for IPv4 and IPv6
Anycast Clients: disabled
No Broadcast Interfaces.
Source IPv4 interface:
Source IPv6 interface:
SG350X#
```

注: この IPv4 および IPv6 のための SNTP ブロードキャスト例でクライアントは上で提供されるステップの結果として有効になります。

ステップ 3.時間帯設定を確認するために次のコマンドを入力して下さい。これは実行コンフィギュレーションを示します。

```
switch23b7cd#show run
config-file-header
switch23b7cd
v2.3.5.63 / RLINUX_923_093
CLI v1.0
file SSD indicator encrypted
```

SG350X#SHOW

ステップ 4.時間帯設定が有効になることを確認して下さい。

```
snmp-server community cisco ro view Default
clock timezone CDT -6
clock summer-time web recurring usa
snmp broadcast client enable both
clock dhcp timezone
```

正常にスイッチの SNTP モードを有効にしました。